

片町・商工会議所跡

(福井市順化)



会館1階レイアウト



会館2階楼間風景



商工会議所絵葉書



商工会議所絵葉書

商工会議所と聞くと今でも片町を思い浮かべる古老は少なくない。それほどまでに片町の商工会議所の印象は強い。明治13年に福井商工会議所の前身となる福井商法会議所が誕生してから130年が過ぎたが、大正から戦争を挟み昭和40年まで、会議所の歴史の三分の一はこの片町で築かれたのである。

明治期の商工会議所事務所の所在は移転を繰り返して、正確な変遷は判然としないが、大正に入ってから照手中町の葺屋跡の家屋に移転。しかし織物景気に沸く福井経済の拠点として手狭で、まもなく新会館建設の機運が高まり、大正7年4月の総会で会館建設が正式に決議され、万年会

頭といわれた黒田興八会頭を長として10名の建設委員が選出された。委員会は新会館の用地として片町通り錦上町68番地(現順化一丁目17・5)、旧世界館の跡を選定し買収した。世界館は元福寿座という日活系の活動写真常設館で、大正6年2月の火事で焼失していた。

建物は照手下町の橋本吉郎が建築を請負った。橋本は加賀屋座や福井劇場も手がけるなど、当時の福井を代表する建築家であった。新館はモダンな洋風2階建てで、主要な部分は間口9間奥行き5間半、建坪は54坪、竣工はその年の12月15日であった。総建築費は『福井商工会議所百年史』は3万円と記すが、これは

調度品などの付帯部分も含んだ金額であろう。農商務省資料では28千円で、内10千円は借入金、金利率7分3厘、2年据置きで7ヶ年償還としている。ちなみにこの年の一般会計予算は5,616円であった。

10年前に新築された福井市庁舎が16千円で、物価上昇を考慮しても相当な投資であったが、昭和20年7月19日の福井空襲で惜しくも焼失した。再建された会館も震災で倒壊焼失し再々建された会館は昭和39年まで使用され、その後、御屋形町(現大手三丁目)に鉄筋5階建ての福井商工会館を新築し片町を離れた。平成5年9月には西木田に現在の商工会議所ビルを新築移転している。